

# クリニックレター 2021年9月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

◆ 当院での新型コロナワクチン個別接種は9月末をもっていったん終了させていただきます。新たに接種を希望される方は、YahooMapというアプリから「新型コロナワクチンマップ」を見ていただくと、お住まいや職場の近くでワクチン接種予約ができる医療機関を検索することができます。また、10月からはインフルエンザワクチン接種が開始になりますが、今のところワクチンの納入量等が未定のため、インフルエンザワクチンのご予約は9月24日以降とさせていただきます。

## 本当の漢方治療とは

当院での新型コロナワクチン接種は、65歳以上の高齢者接種を8月中旬でほぼ終了し、現在は若年者接種を継続中です。この5月以降、午前の診察終了後や土曜の午後、さらには休診日の水曜を接種に当ててきましたが、8月末で延べ接種数600回となり、9月末には750回となる予定です。ころころと変わる行政の方針に右往左往している中、ふと気がついたら、当院も設立25年の節目を通過し、新しい四半世紀に入っていました。

(1996年7月6日が開院日です)この間、心療内科や婦人科の専門領域の先生方にも助けていただきながら、漢方と現代医学のハイブリッド医療を目指してきましたが、私自身大きなトラブルもなくこれまでやってこれたことを、周りの方々に感謝したい思いで一杯です。そして誰よりも、私にとっての「先生」は患者様方です。様々な年齢、病歴、背景を持った患者様お一人お一人と接することで、本当に少しずつではありますが、自分が成長させていただいていると感じています。

さて、今月は、「本当の漢方治療とは」というテーマでお話をしたいと思います。最近では、一般の医師の間でも漢方薬の処方があることではなく、私の所に来られる患者様でも、お薬手帳を拝見すると、他院で漢方薬がすでに処方されていることがとても多くなったように感じられます。しかし、私の目から見ると、その多くがいわゆる「病名漢方」、すなわち、肩こりがあるから「葛根湯(カクコン)」や、疲労感があるから「補中益気湯(ホチュウイキトウ)」、というような処方であり、おそらく処方した医師は、漢方の歴史や理論には興味がなく、葛根湯にどのような生薬が含まれていてそれらの一つ一つがどのような作用を持ち、注意すべき副作用はなにか、というようなことも全く考えずに処方している、という状況ではないかと思えます。では、「本当の漢方診療」とはなにか！

我々漢方専門医は、患者様の状態を漢方的な視点から詳細に観察し、漢方的な病態分析をおこなったうえで薬を処方します。実は「漢方的診察」は、患者様が診察室に入られる前から始まっています。お名前をお呼びして診察室に向かわれる際の足音、リズム、呼びかけに答えられる声の様子、診察室前で待っていただいている時の気配、問診票の内容だけではなく書かれている文字の様子、診察室に入られる際の歩き方、椅子への腰掛け方、これらがすべて漢方的診察の対象となっており、極論すれば、実はここまでで診察の半分以上は済んでいると言ってもいいかもしれません。初診の方は、このあと看護師の問診を参考に



お話を聞きし、舌診・脈診・腹診をおこないます。

舌診は、舌の色、形と動き、舌苔の色や厚さなどを観察し、脈診では主に左右の手首橈骨動脈部位で、六部定位脈診と呼ばれる左右各3か所の脈の様子を見ます。舌の色調は絳(コ)紅(コ)淡(ク)白(ク)暗(ク)瘀(ク)などがあり、歯の形がついているものを歯根(シツ)舌の表面がひび割れているものを裂紋(レツエン)などと表記します。脈の種類(脈象)には28種あると言われており、それぞれに、沈・浮・弦・細・・・などの名前が付けられています。(決して脈の速さだけを見ているではありません) そのあとはベッドに横になっていただいで腹診です。腹診では主に、お腹の硬さ柔らかさ、抵抗や圧痛のある場所を調べます。特に日本漢方では、腹診所見に“胸脇苦満”“心下支結”“小腹不仁”“臍傍悸” (なんとなく漢字の響きでわかりますか?) などの名前がつけられており、処方選択の参考とされています。

さて、最後に、以上の所見を総合して患者様の病態を組み立てる作業(頭の中で)をおこないます。さらに、今の体質はどうか、これまでの生育歴や家族環境、社会環境が主な症状にどのように関連しているのか?今感じておられる症状を最優先して治すのか(これを先表後裏と言います)体質改善を図りながら症状の改善を待つのか(先裏後表)の方針を決めるのも大事なことです。この作業(これを“四診合算”と言います)は、数秒間で終わることもあり、うーん・・・と考え込んでしまうこともあります。

そして、この四診合算こそが、漢方医の醍醐味でもあり、漢方専門医でしかできないことなのです。正直に言いますと、この四診合算ができない(漢方の)素人医師には漢方薬を処方してほしくない、貴重な生薬資源を無駄遣いするのなら漢方薬など処方しない方がマシだし、そうでないと漢方薬が可哀そうだ、というのが、40年近く「漢方愛」を貫いてきた私の本音です。

さて、このように私自身の脳みそをフル回転させて、最後に「処方決定」となるわけですが、「はい、それではこの処方で行きましょう」と申し上げたあと、まれに患者様から、「それでそのお薬は何に聞かれますか?」と聞かれてガックリすることがあります。患者様にしてみればどのようなお薬が出されるのかを知りたい、というのは切実なところで、本当はこと細かに説明させていただきたいのですが、上記のような処方決定に至るまでの一連のプロセスを簡単な文脈で説明することが今の私には難しいのです。これについては、引き続き私の課題とさせていただきます。

(追記)

上記の内容と反対の話をしようと思いますが、実は漢方の事をあまり知らなくても一定の効果期待できる処方もいくつかあります。その代表が、こむら返りの特効薬である“芍薬甘草湯(シャクヤクカンゾウ)”で、こむら返りの予防としては80%以上の効果があるとされています。もっとも、多量に使った際の副作用のことや、もし効かなかった時の「次の一手」は、やはり漢方を勉強していただかないと無理だとは思いますが。

## 患者様へのお知らせ

9月21日(火)を休診とさせていただきます。

連休の前後などや、2診の日など、待合室が混雑する日がございます。検査がある方などは午前中の来院をお願いする場合がありますが、再診のみの方はどうぞ午後の診察もご利用ください。

## お車で来院される患者様へ

歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、絶対に車を駐車されないようにお願いします。駐車場でのアイドリングもおやめください。